

調査期間 2015年8月1日～同年11月30日
2015年11月16日～同年1月31日

所在地 伊勢原市上粕屋地内

時代 近世、中世、奈良・平安、古墳
縄文

調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3.5キロに位置する



主な調査成果

上粕屋・子易遺跡（伊勢原市 No. 39）

丹沢山塊東麓に派生した丘陵上に立地する遺跡です。2015年度は鈴川左岸側に展開する丘陵の南東側末端縁ちかくに設定された調査区で調査を実施し、近世の段切状遺構・溝状遺構、中世の周溝状遺構・掘立柱建物跡・溝状遺構、奈良・平安時代及び縄文時代の土坑・ピットなどの遺構を発見しました。中世に帰属する周溝状遺構は、幅1.2～2mの溝を方形に廻らせるもので、南北外縁長で14.2m程の規模を有しています。南東角に排水溝と思しき溝が取り付けられており、北溝及び南溝の中央付近には対になるようなかたちでかわらけが埋置されていました。お堂あるいは祠といった、何らかの建物を取り囲んでいたものではないかと考えています。

上粕屋・子易2遺跡（伊勢原市 No. 163）

鈴川左岸の段丘面に立地する遺跡で、2013年度以降、断続的に複数地点の調査を実施してまいりました。これまでの調査において、中世に帰属する石敷道路状遺構（2013年度調査）など、特筆すべき遺構が発見されています。2015年度は現大山街道に隣接する3地点の調査を実施し、掘立柱建物跡・埋納遺構・石垣・地下室状遺構・道状遺構・溝状遺構・水田跡など、近世以降に帰属する多数の遺構を発見しました。建物跡や地下室状遺構・石垣などは、大山街道沿いに占地する屋敷とその付帯施設と考えられるもので、母屋とそのバックヤードに展開する各種施設、生産域との位置関係などを明瞭に看取することができる良好な調査成果を得ることができました。



上粕屋・子易遺跡 中世の周溝状遺構（西から）



上粕屋・子易2遺跡 近世の地下室状遺構・石垣
（南西から）